

自己評価報告書

平成23年 5月25日現在

機関番号：32664

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720060

研究課題名（和文） 菊亭家とその蔵書に関する研究

研究課題名（英文） A study of Kikutei family and the collection of books

研究代表者

田中 幸江（TANAKA Yukie）

二松学舎大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：30445720

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード： 書誌学・文献学・目録学・菊亭・今出川・文庫・蔵書・公家文化

1. 研究計画の概要

本研究は、藤原北家閑院流、西園寺実兼（1249～1322）の男兼季（1281～1339）を祖とする今出川（菊亭）家と、その蔵書「菊亭文庫」の歴史を明らかにするものである。

研究当初の計画は、以下の通りである。

- (1) 現存する菊亭家当主の日記を調査する。
- (2) 菊亭家旧蔵書を調査する（探索・閲覧・複写）。
- (3) 「菊亭文庫」「菊亭本」の定義について考察する。
- (4) 菊亭家歴代当主の手になる書物をリスト化する（当主の書蹟を収集し、リスト化する）。
- (5) 京都大学附属図書館・専修大学図書館蔵「菊亭文庫」のうち、後補表紙が付されているものの外題の書蹟を採集する（修補者、年代などを推定する）。
- (6) 蔵書印を分類・整理する。

2. 研究の進捗状況

当初計画(1)～(6)の進捗状況は以下の通りである。

(1) 歴代当主の日記の所蔵状況、残存状況を調査した。特に第14代菊亭家当主今出川公規（1638～97）の日記『公規公記』、第21代当主今出川実種（1754～1801）の日記『実種公記』については、内容も含めて研究を進めている。『公規公記』については、研究成

果を論文2本にまとめた（1本は入稿中、1本は近々入稿予定）。

(2) 京都大学附属図書館・専修大学図書館・東京国立博物館のほか、各地の図書館・文庫の目録をもとに旧蔵書の探索、採訪調査を行った。また、菊亭家菩提寺の採訪調査も行った。

(4)(5)(6) 採訪調査で収集した、菊亭家旧蔵書の書誌事項の整理を行い、菊亭家歴代当主の手になる書物・書蹟をリスト化するとともに、蔵書印についても整理・分類した。

なお、(1)の研究の過程で菊亭家が天皇家の蔵書「禁裏文庫」中の楽器・楽書の管理に関与していた可能性が出てきたことから、当初の計画外ではあるが「禁裏文庫」の楽器・楽書目録についての調査・研究も行った。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

（理由）

研究計画のうち、(3)については、当初の目論み通りの成果を得ることができなかった。

また、(1)については、歴代当主のうち「菊亭文庫」の生成と発展に特に寄与したと考えている第14代当主今出川公規、第21代当主今出川実種の日記の研究に重点をおいたため、ほかの歴代当主の日記については手付かずの状態となってしまった。

加えて、当初の計画にはなかった「禁裏文庫」中の楽器・楽書目録についての研究も行ったため、成果の公表が予定よりずれ込んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度を向かえ、現在までの研究成果を早急に公開し、批評を仰ぎたいと考えている。

(1)については、研究を進めている『公規公記』『実種公記』についての成果をまとめることを最優先とし、他の歴代当主の日記については他日を期したい。特に『公規公記』については、入稿中のもも含めた論文2本のほか、現在執筆中の論文も本年度の発表を目指す。

(2)によって収集、整理したデータについても、冊子媒体だけではなく、電子媒体も視野に、公開に向けて努力していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①田中幸江、上野学園大学日本音楽史研究所蔵『禁裏御文庫楽書并御楽器之目録』について、平成18～20年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「中世後期禁裏本の復元的研究」研究成果報告書、97～114頁、2009年、査読無。